

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標1 “みんなが思いやり・支えあう福祉”への理解を広げる

【取組・評価の視点】

- ①多様な情報を、わかりやすく発信する ②必要とする人に的確に伝える ③情報への関心を高める ④誰にでも関わることとして地域福祉を理解する ⑤学校、地域、家庭、職場など、身近なところで学ぶ
⑥多様な学習の機会やプログラムをつくる

(1) ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 市HPに記載している市内の公共施設等のバリアフリー情報を更新(①, ②) 市HPに新たにヘルプマークのページを作成(①, ②) 情報発信を目的としているプロジェクトチーム「あしや発信局玉手箱」にて、シニアを対象とした「災害時に役立つスマホ講座」を実施し、市内の甲南高校や芦屋大学学生の協力のもと世代間交流を図りながら、災害時に備えておきたいスマホの操作について学ぶ機会をつくれた。(①～⑥) 全民生委員・児童委員に、「あしや防災ネット」への登録を依頼し、登録会を実施(②, ③) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>「あしや発信局玉手箱」は、これまで活動の成果がなかったが、チームの目的を再確認し、毎月の協議を重ねてスマホ講座の企画から実施まで成し遂げることができた。(①～⑥)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>まずはやってみることが今年度の到達点であったが、今回の「災害時に役立つスマホ講座」が市内の様々な地域で実施されるよう、取組に賛同してくれる関係機関や団体と連携していきたい。</p>
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉センター利用者アンケートの機会を活かし、手話や、「ひとり一役活動推進事業」等、福祉に関する情報の発信の工夫をした。(①, ③) 福祉に関する情報を館内に掲示し、情報の発信に取り組んだ。(①, ③) 市民課窓口案内システム、フェイスブック、ホームページ、まちナビ等を活用、また福祉センターだよりの発行により情報発信を行った。(①, ③) エントランス事業や保健福祉フェアの開催により、保健福祉センターの周知を図っている。(①, ④, ⑥) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月に行った保健福祉センター利用者アンケートにおいて、手話に関する質問を取り上げたり、「ひとり一役活動推進事業」の紹介を載せ、啓発を行った。(①, ③) 総合相談横のカウンターを使い、H29年度改訂した保健福祉センターパンフレットに取り入れた音声コードの紹介等、福祉に関する情報の発信に取り組んだ。(①, ③) 1月に行った介助犬出張講座の案内を、従来の情報発信方法に加え、市民課窓口案内システムや芦屋市のフェイスブックを使って周知した。(①, ③) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>様々な情報発信のツールを活用し、継続して情報発信を行う。</p>
障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 改訂した「おしえて！芦屋っぴ」をHPへ掲載(①, ②) 自立支援協議会の専門部会でポータルサイトの構築に向け具体的な内容について協議した。(①, ②) 障がいのある人が演奏したピアノと琴の演奏版「このまちがすき」を庁内放送で実施した。(③) 福祉フェアの企画のひとつとして、発達障がいについて体験できる事業を実施した。(③) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトについて予算化し、来年度以降稼働できるような体制まで推進した。(①, ②) HPについて今後わかりやすく情報を整理するため検討している。(①, ②) 発達障がいに関する啓発は、自ら体験できる内容だったため、単なる情報発信ではなくより多くの反響を得られた。(③) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトを本格稼働させ、皆がアクセスしたいと思えるコンテンツを充実させる。 紙媒体での啓発から電子媒体への移行推進 ポータルサイトのみならず、直接触れることのできる情報発信・コミュニケーションの場を研究する。
高齢介護課	<p>事業所のホームページで介護予防事業等のイベントの告知を実施し、利用を検討している方に即座に知らせることができた。また、「子育て推進課」で実施している「わくわく子育てアプリ」に掲載し利用の推進につなげた。(②, ③)</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>市で使用している発信方法を紙媒体だけでなくホームページやアプリ等の電子媒体で実施できるように他課と調整した。(③)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>電子媒体での掲載は単発での実施であったため、イベント等の掲載方法について情報収集する。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
子育て推進課	<p>・子育てサポートブックの内容を見直し、最新情報を掲載した。保育所、幼稚園に配布するとともに、市役所、保健センター、子育て支援センター、ラポルテ市民サービスコーナーなどで配架し、広く子育て世代に行きわたるようにした。(①, ②)</p> <p>・子育てアプリ「子育てタウン」及びWEBサイト「わくわく子育て」を活用し、子育てに役立つ情報やイベントのお知らせ等を随時発信した。(①, ②)</p> <p>アプリ登録者数(H31.1.31時点)：1,683人</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>・子育てサポートブックの内容の見直しの他、写真や地図を多く掲載し、分かりやすい内容になるよう工夫した。(①, ②)</p> <p>・市主催のイベントだけではなく、共催のイベント等のお知らせについても積極的にアプリを活用して広く周知を行った。(①, ②)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>・サポートブックは、内容を充実させて情報を更新して順次発行する。</p> <p>・子育てアプリの情報量を充実させるなど、ツールを積極的に活用することで、子育て世帯にとっての利便性を高め、必要としている人に的確でわかりやすい情報提供ができるよう努める。</p>
健康課	<p>・保健センターだよりの全戸配布や、広報あしや、市ホームページ、まちナビ、母子健康手帳アプリ等で情報を発信した。(①～③)</p> <p>・母子健康手帳アプリの登録率は12月末時点で9.04%で昨年同様の登録率である。</p> <p>・災害にともなうイベント変更などの情報発信を行った。</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>・子育てフェスティバルを開催し、子育て支援とともに母子健康手帳アプリの周知啓発を行った。(①)</p> <p>・母子健康手帳交付時に保健師がひとりひとり説明し、母子健康手帳アプリを案内した。(②)</p> <p>・情報発信ツールとしての母子健康手帳アプリの周知を強化した。(③)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>わかりやすく情報を発信するために、健康課市ホームページの構成や内容の検討を行う。</p>
政策推進課	<p>「あしやを歩く本『芦屋』」を発売(11,000部)し、歴史・芸術・文化など市の魅力を広く発信した。</p> <p>また、本の発売にともない、アプリ「芦屋歩記」(登録数3,406)などを活用したスタンプラリー(7/1～12/31開催、応募数788件)を市内80店舗以上の協力のもと実施し、市の魅力・住みやすさの認知度向上を図った。</p> <p>(①～④)</p> <p>※「あしやを歩く本『芦屋』」発刊数、アプリ「芦屋歩記」登録数、スタンプラリー応募数全て1月現在の数</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>市内の方にも本市の魅力を再発見してもらえるように、本の発売とともに、市内の文化施設や店舗を巡るスタンプラリーイベントを開催した。(①～④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>引き続き、WEBサイトやSNSを活用し、本市の魅力と認知度の向上を図るためのシティプロモーションを進める。</p>
お困りです課	<p>・相談に関する様々なチラシ・パンフレットを展示コーナーに配架して、必要に応じてお持ち帰りいただけるようにした。(①～③)</p> <p>・気軽に相談できるよう、具体的な相談事例を紹介するパネルを作成して、展示コーナーや北館通路に掲示した。(①, ③)</p> <p>・相談窓口パンフレットやチラシの配布・配架先を拡大したほか、相談一覧のポスターを作成し、庁内に掲示した。(③)</p>	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>相談窓口をより多くの方に知ってもらうため、ポスターや展示パネルを作成した。(①, ③)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>より多くの方に相談事業を知っていただけるよう、市民相談啓発用カレンダーを作成する。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
市民参画課	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会連合会のホームページで、各自治会が発行する「自治会だより」を掲載し情報提供している。(①～③) ・メールによる連絡や会議等の日程調整を開始したほか、インターネットサービスによる意見交換のフォームを整備し、若い世代とのやりとりが手軽に行える状態を整備した。(①～③) ・あしや市民活動センターのホームページに、ボランティア募集情報や市民活動センター登録団体情報を掲載し情報提供している。(①～③) ・指定管理者の管理するFacebookにあしや市民活動センター利用状況や、あしや市民活動センターの事業を掲載している。(①～③) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会連合会のホームページをリニューアルした。(①～③) ・自治会連合会の活動を知ってもらうため、役員会、理事会、附属機関の会などの詳細な議事録を作成しホームページに掲載している。(①～③) ・自治会連合会所属の自治会長にメールアドレス登録の協力を呼びかけ、運用している。(①～③) ・Facebookやためまっぷ芦屋などの構築を行った。(①～③) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の情報が自治会連合会のホームページで掲載できることを周知し、自治会に対して情報提供を働きかける。 ・市民にICTが身近な存在になるようなセミナー等を開催する。 ・Facebook等を活用し、さらに多くの団体や市民にあしや市民活動センターの活動について周知を図る。
広報国際交流課	<p>自動翻訳や読み上げ機能の利便性を高めるため「広報あしや」のテキスト形式のデータを市ホームページに公開した。(①, ②)</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>市ホームページへ4月15日号からテキスト形式のデータをアップした。(①, ②)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>広報紙をリニューアルし、より見やすく内容の充実を図る。 市ホームページから欲しい情報がすぐに見つかるようにカテゴリーや記載内容を改善する。</p>
地域経済振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ツイッター、広報紙で、消費生活トラブルについて情報を発信(①～③) ・コープこうべの夕食配達サービスに、毎月流行している消費生活トラブル啓発チラシを同封(②) ・福祉センター、高齢者生活支援センター等へ、流行している消費生活トラブル啓発チラシを配布(②) ・消費生活サポーター講座を開催(⑤, ⑥) ・消費生活セミナーを開催(⑥) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単身の利用者が多い夕食配達サービスや、高齢者関連施設へのチラシは、特に高齢者に注意してもらいたい内容のものを提供した。(①～③) ・ホームページやツイッターでは、流行のトラブルについての速報を発信した。(①～③) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>ツイッターのフォロワー数を増やし、より多くの方に情報が行き渡るよう、効果的に発信していく。</p>
上宮川文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員、老人会代表等とは地域見守り会などと連携している。(①～④) ・困りごとがあれば当センターに相談に来れるように、地域の方の相談業務を行っている。(①～④) ・子育て推進課と子育てアプリで連携しており、児童センターHPを新たに作成した。(①～④) ・保健師が各医療機関、介護施設と連携をとっている。(②) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>関係機関との情報の共有を意識して、取り組んだ。(①～④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>更に関係機関との連携を深めること。</p>
建設総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済振興課と共同で運営するTwitterアカウント(フォロワー数71名)を利用して生活安全に関する情報を2～3か月に1回の頻度で発信した。(平成29年度より実施)(①) ・出前講座を実施し、「交通安全」のテーマの講座は平成30年度2回実施(⑥) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>注意喚起や生活安全に関する講演会等の開催案内など、幅広い情報を発信した。(①)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活安全に関する多様な情報を広く市民に伝える。 ・Twitterのフォロワー数を増やし、幅広い世代の方に情報発信する。

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
防災安全課	<ul style="list-style-type: none"> ・防災情報マップを全戸配布し、防災訓練や出前講座等において、災害の危険性や避難施設等の周知を行った。(②, ③) ・SNS (Facebook, Twitter) を積極的に活用し、災害時には避難発令や避難所情報を発信し、平常時には防災訓練の様子など地域防災活動をPRした。(②, ③, ④) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 防災情報マップのWEB版の導入により、スマートフォンなどで、いつでもどこでもハザード情報や避難施設等を確認できるようにした。(②～④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 情報収集や避難行動の必要性について、引き続き要配慮者及び支援者の双方に啓発をする必要がある。</p>
青少年 愛護センター	<ul style="list-style-type: none"> ・成人年齢が18歳に引き下げられることに備えて、事例の紹介や親子で取り組む対策について学ぶ「青少年育成愛護委員会研修会」を企画、実施した。(「若年層の消費者トラブルを防ごう」, 10月19日, 32人参加) (②, ④) ・芦屋市青少年育成愛護委員会と中学校区青少年健全育成推進会議が合同で開催する「青少年問題研修会」を企画、実施した。(「インターネット世界におけるリアルな子ども達の姿」/筒崎真美氏, 2月8日, 99人参加) (②, ④) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 両研修会とも第一線で実務に携わる人を講師に迎え(消費生活相談員, 兵庫県警サイバーパトロールモニター), 今現実に起こりつつある事例を具体的に紹介し, その回避策について学んだ。(②, ④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ネットやスマホの急速な進展に対しては, 保護者・青少年・関係者の情報リテラシー(活用能力)や情報モラルが向上するように啓発活動を効果的に継続して行う必要がある。</p>

(2) 地域福祉について学んだり, 考えたりする機会を増やします

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々なイベントに, 地域福祉アクションプログラム推進協議会の一員として参加し, 地域福祉計画の周知・啓発を行った。(茶屋あきまつり, 潮芦屋ふれあい秋まつり, 高浜町1番まちびらきイベント) (①, ③～⑤) ・地域の様々なイベントに, 日本赤十字社芦屋支部として参加し, 活動資金の募集を募りながら, 周知・啓発を行った。(保健福祉フェア, 茶屋あきまつり, 南芦屋浜防災訓練, 高浜町1番まちびらきイベント) (①, ③～⑤) ・地域活動の活性化を目的に, 保健福祉フェアで「地域福祉アクションアワードvol.4」を開催し, 各地域で活躍する住民や団体の方々からの活動報告と活動への表彰を行った。(①, ③～⑥) ・認知症サポーター養成講座をキッズスクエアで実施し, 小学生への周知を図った。(①, ④～⑥) ・行政改革に係る, 健康増進・全世代交流プロジェクト・チームの活動である「こえる場!」の食のグループによるイベント開催により, 防災に関する知識を身につけるとともに, 身近な居場所に求める事・物等について考えるきっかけづくりを行った。また, 学びグループが開催する芦屋大学で実施するイベントにおいて, 各企業, 団体, 市民等が提供する様々な企画を通じ, 地域福祉をはじめとした学びの提供を行う予定である。(⑤, ⑥) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・小学生が学びやすいよう, 寸劇等を取り入れたプログラムに調整し, 実施した。(①) ・災害の多い年だったこともあり, 赤十字奉仕団の皆様の協力のもと, 日赤についてPR活動を強化した。(③) ・保健福祉フェアにおける「地域福祉アクションアワード」は, 多くの方に参加いただけるよう, 昨年度のアンケート結果を踏まえ, 時間構成や全体の流れを工夫して実施した。(③, ⑤) ・「こえる場!」の活動やイベントは, 地域住民の身近な場所で展開できるように工夫した。(⑤, ⑥)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・地域福祉アクションプログラム推進協議会として啓発がチラシ等の配布にとどまっているため, 啓発の手法が課題である。 ・地域でのイベントに引き続き参加する中で, 出展の内容を検討する。 ・認知症サポーター養成講座のキッズスクエアでの実施については, 市内の全ての小学校で実施できるよう調整する。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の活動や健康増進についてより詳しく知ってもらうため、福祉や健康をテーマにあしや保健福祉フェアを開催している。(6) 障がい理解を深める事業として介助犬出張講座を開催した。(6) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 1月に介助犬出張講座「介助犬ってどんな犬？介助犬について知ろう！」を、障がい理解を深める事業として開催した。(6)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 福祉センター内で行える、啓発や学習の機会となるような場面を検討する。</p>
障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 啓発冊子「みんなが輝いて暮らせるまち芦屋」を作成し、社会福祉協議会を中心に、学校現場で福祉学習について取り組んだ。(1, 3) 市職員や市民向けの視覚・聴覚に障がいのある人に対する読み書き支援研修を実施した。(3~5) 職員向けの手話講座を実施した。(3, 5) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・啓発方法について、動画を製作し、より関心を持ってもらうように工夫した。(3) ・芦屋警察学校、商工会、自治会など行政以外の団体向けに手話の啓発事業の声掛けをした。(3)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・市民向けの啓発事業の充実を目指す。 ・障がい者差別解消地域支援協議会での取組について啓発に努める。</p>
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ連合会やシルバー人材センター等高齢者の団体が担い手となり、地域に根差した活動に取り組むことを支援している。(4, 5) 高齢者自らが子どものいる現場に出向き、世代間交流を行っている。(5, 6) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 老人クラブ連合会に対して「はびねすカード」周知のための補助金の増額や各団体の広報の実施や周知活動を行うための支援を行った。(3)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 担い手となる人の確保</p>
ハートフル福祉公社	福祉講演会の実施（交通事故と犯罪から身を守る×1回、災害への備え×1回）、介護教室3回（アロマハンドケア講座×2回、映画上映会×1回）（1~3）	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 テーマによっては参加者が少ない場合があるので、イベント案内ちらしを民生児童委員などにも配布した。(1~3)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 芦屋市からの委託事業化することに加え、社会福祉協議会と事業統合することから、実施方法・テーマなど今後の検討課題</p>
子育て推進課	<p>（高齢者との交流）(4, 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の公立保育所4・5歳児が継続的に高齢者施設に訪問したり、保育所にも来ていただいたりと、交流をしている。訪問した際には、歌を歌ったり一緒に手遊びをしたりふれあいを楽しみ、子どもたちにとっても楽しみな活動となっている。高齢者の方も保育所の行事に楽しく参加してもらっている。（クリスマス会や焼き芋パーティー等） <p>（地域の人との交流）(4, 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の公立保育所の近隣の高齢者に将棋を教えてもらったり、一緒に公園の清掃をしたり等、積極的な交流を図っている。保育所に来ていただいて、鉄道模型や鉄道切符等見せていただく機会もあった。 災害訓練も近隣の施設を含め、合同で実施している。 シルバー人材センターとは通常の交流以外にも防災についての紙芝居を読んでいただく交流も始めた。 散歩に出かけたら、子どもたちから地域の方々に挨拶をする機会が増えている。 <p>（中高生との交流）(5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内中学校のトライやる・ウィークは積極的に受け入れ、職場体験だけではなく、乳幼児に関わる機会の一つとして、命の大切さや愛情を感じたり持つことを体感できるようにしている。保育所の子どもたちにとっても中学生から多くの刺激をもらっている。高校生は授業の中で来られる以外にも、学校に招待してもらい、体育祭等で交流を図っている。 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 世代間交流、地域交流等つながりの大切さを意識し、機会があれば参加したり、交流の機会を作ったりした。(4~6)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 今後も地域の方々や施設との交流を継続し、つながりの大切さを子どもたちに伝えていきたい。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
健康課	健康づくりに関する出前講座や市内各種団体からの依頼によるデリバリー健康講座を実施した。(⑤, ⑥) 実施数 3回 , 今後の予定回数 2回 計5回(見込み) 参加者数 136人, 今後の参加者見込数 60人 計196人(見込み)	B	【今年度工夫・努力したこと】 健康づくりに関する出前講座メニューに「フレイル予防」を追加し, 新たな健康づくりについて学習する機会の増加に努めた。(⑤, ⑥) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 健康づくりに関する情報「フレイル予防」については, 引き続き周知啓発の拡充と予防対策を講じていく必要がある。
政策推進課	「あしやを歩く本『芦屋』」を発売(11,000部)し, 歴史・芸術・文化など市の魅力を広く発信した。 また, 本の発売にともない, アプリ「芦屋歩記」(登録数3,406)などを活用したスタンプラリー(7/1～12/31開催, 応募数788件)を市内80店舗以上の協力のもと実施し, 市の魅力・住みやすさの認知度向上を図った。 (①～④) ※「あしやを歩く本『芦屋』」発行数, アプリ「芦屋歩記」登録数, スタンプラリー応募数全て1月現在の数	B	【今年度工夫・努力したこと】 市内の方にも本市の魅力を再発見してもらえるように, 本の発売とともに, 市内の文化施設や店舗を巡るスタンプラリーイベントを開催した。(①～④) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 引き続き, W E BサイトやS N Sを活用し, 本市の魅力と認知度の向上を図るためのシティプロモーションを進める。
上宮川文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を図り, 支えあう意識を高めるため当センターでの喫茶事業「ひかりかふえ」を週1回2時間実施している。(①～⑥) ・人権課題の学習, 絵本等を通じての親子のコミュニケーションがとれるように図書室, 自習室を設置している。(⑤) ・自立した生活を送れるように健康講座を実施した。(⑤, ⑥) ・上宮川公園で地域の盆踊り, 当センターでふれあいフェスタ等を行い, 地域の交流を深めている。(⑤, ⑥) ・状況に応じて, 地域住民向けに福祉意識向上のための講演会を開催した。(⑤, ⑥) ・健康講演会, 講習会を実施した。(⑤, ⑥) 	B	【今年度工夫・努力したこと】 市民の利用促進のため, 自習室の利用時間延長を実施した。また, 図書室の利用促進のためのP Rをした。(⑤, ⑥) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 転入者が孤立しないようにコミュニケーションを増加させること。
防災安全課	防災訓練や地域団体等が主催するイベントにおいて, 防災体験プログラムを実施した。(④～⑥) (カエルキャラバン3回, 防災体験プログラム一部導入 十数回)	B	【今年度工夫・努力したこと】 地域団体等と連携し, イベント等で防災体験プログラムを実施することにより, 親子連れや子育て世代に対して防災啓発を行うことができた。(④～⑥) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域における防災活動を地域の特性に応じ継続的に実施していく取組が必要である。 ・まだ防災訓練を実施できていない地域に対し, 地域で行われるイベントに防災活動を取り入れて実施したい。
水道業務課	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小学校の全校朝礼にて全校生徒を対象に, 「水道水は安くて, 安心, 安全で美味しい」をテーマにP Rを行った。また, 今年度は芦屋市水道通水80周年であり, 記念グッズの配布も併せて行った。(⑤) ・奥山浄水場にて市内の小学生を対象に施設見学会を開催し, 水道水ができるまでの過程, 直結給水について学習してもらった。今年度は山手小学校と潮見小学校の2校(いずれも小学4年生)からの参加があった。(⑤) 	A	【今年度工夫・努力したこと】 全校生徒を対象としたPRであったため, 小学一年生から理解できる説明内容にしたり, 大きく見やすい説明用パネルを作成する等の工夫を行った。(⑤) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 昨年, 自然災害による被害が多発したことを受けて水道水の大切さや, 災害時の貯水槽の活用方法等の学習を行えればと思う。

【行政】平成30年度第3次芦屋市地域福祉計画取組状況

参考資料

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
芦屋病院	<ul style="list-style-type: none"> ・年に4回病院広報誌「HOPE Plus」に、医師等による身近な病気の解説を引き続き掲載（①，③） ・芦屋病院の医師・看護師・医療技術職員が公民館公開講座において、病気や予防に関する最新の医療情報を提供 また、市民の依頼に応じ、生活習慣病や病院のかかり方について医師による出前講座を実施（②，⑥） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>市民の皆様にも身近な病気を知ってもらい、早期発見・早期治療をしていくための予防医療について啓蒙活動を行った。（①，③，⑤）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>継続実施</p>
学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・市内中学2年生が9カ所の事業所（内福祉施設19カ所）で、トライやる・ウィークの活動をした。（⑤） ・初期日本語指導教室等帰国外国人児童生徒の学習環境整備（潮見小学校における初期日本語教室）を行った。（⑤） ・三田谷治療教育院と連携し、ペアレントトレーニングやソーシャルスキルトレーニングなどを開催した。（⑤，⑥） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の心の痛みへ共感したり、共生の心を育んだりする教育は、今後も充実させていく必要がある。（②） ・トライやる・ウィークの事前学習として、「進路の学習」（冊子）を利用して学習を進めた。また、1年時の福祉体験学習や外部講師の話を聞く会などを各校で実施した。（④） <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライやる・ウィークでは、受け入れ希望の福祉施設のすべてで、生徒が活動できるようにする。 ・外国人や高齢者、障がいのある人など、共に生きる様々な人々への理解を深める学習活動の充実
生涯学習課	<p>引き続き、出前講座（31件）及び社会教育関係登録団体が講師を務めるあしや学びあいセミナー（市民版出前講座）を実施する。（⑥）</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>出前講座及びあしや学びあいセミナーのメニューの見直しを行い、広報あしや等で周知した。（⑥）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>出前講座及びあしや学びあいセミナーの継続実施</p>
青少年育成課	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスクエアにおいて、様々な企業と連携したプログラムを実施した。（③～⑥） ・地域福祉課・社会福祉協議会と連携し、子どもたちに「認知症の理解」を深めるため、キッズスクエアの体験プログラムとして、認知症サポーター養成講座を実施した。（③，⑤） 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズスクエアの運営についてNPO法人と協力し、子どもたちにとって様々な体験ができるよう、企業と連携したプログラムを多数実施した。日ごろ接することのない企業の人から話を聞いたり、一緒に何かをすることが子どもたちや世話人である地域の人の人にとってよい機会になり、企業側にも地域貢献の機会を提供している。（③，⑤，⑥） ・キッズスクエアにおける地域で開催するお祭り等のイベント企画も盛況だった。（⑥） <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>今後、引き続き子どもたちが興味を持ち、キッズスクエアを通して、人とつながり学べるプログラム作りを実施し、子どもたちにとって意義ある内容とする必要がある。</p>
公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座の受講者や芦屋川カレッジ等の修了生が、自主グループを形成し継続的に活動を行う中で、地域社会へ積極的な参加が促進されている。（③） ・公民館講座や芦屋川カレッジ等の事業を民間事業者へ委託し、地域福祉の視点も含めた学習プログラムを提供・実施した。（④，⑥） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>公民館講座については、講座数を増やし、より多くの方に受講いただけるように工夫した。（⑥）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>講座内容を見直し、新しい方にも受講いただけるように工夫する。</p>

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標3 “できること・したいこと”での参加を進める

【取組・評価の視点】

- ①多様な人が参加できる地域福祉活動を進める ②健康づくり・介護予防や生きがいづくりの活動を進める ③社会参加や就労を支援する ④参加を積極的に呼びかける ⑤活動をサポートする体制を充実する
⑥活動場所や財源の確保、情報発信などの支援を充実する

(3) 「ひとり役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ★

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 活動先：介護保険施設等受入機関 26か所／ひとり役ワーカー登録者 139名(11月末時点) (①) 受入事業所に障がい者施設が増え、幅広い活動ができるよう体制を整えた。(①, ②) 福祉フェアでの啓発やひとり役ワーカー及び受入機関宛に「ひとり役通信」の発行を開始するなど、啓発に努めた。(①, ②, ④) 生活支援体制整備事業において、地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター)が、ひとり役活動推進事業の推進も担い、様々な活動を紹介することで、地域住民が地域福祉活動を始めるきっかけづくりを行った。(①, ②, ④, ⑤) ひとり役ワーカー向けに認知症サポーター養成講座を実施し、ワーカーの活動時の不安の軽減や活動促進を図った。(④, ⑤) 平成31年3月にひとり役ワーカー交流会を実施し、ワーカー同士のつながりをつくることで、活動の促進等を図る。(④, ⑤) 広報あしや高齢者特集号に掲載し、周知を図った。(⑥) 在宅の活動の増加をめざし、高齢者生活支援センター連絡会に事業の説明を行った。(⑥) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとり役ワーカー通信の発行やひとり役ワーカー向け研修の実施など、活動を促す取組を実施した。(⑤) 幅の広い活動をしていただけるよう、障がい者施設等様々な活動場所の検討をした。(⑥) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層のワーカー登録者の増加 在宅の活動者の増加
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 館内に「ひとり役活動推進事業」のチラシを常時設置(①～③) 保健福祉センター利用者アンケートで、「ひとり役活動推進事業」の事業紹介を行った。(①～③) ひとり役活動受入機関(花苗植替作業)として登録し、活動場所となっている。(③～⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>保健福祉センター利用者アンケートで、「ひとり役活動推進事業」の事業内容や、福祉センター内で可能なひとり役活動場所も紹介し、周知を行った。(①～③)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>登録者の増加をめざし、啓発活動に努める。</p>
防災安全課	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練を実施(①, ④) 防災士の資格取得支援のための支援(補助金助成)(⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>小学校区ごとに防災士に目標を定めてもらい、実践していただいた。(防災倉庫の点検、貯水槽給水訓練等)(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>防災士が積極的に活動している地域がある一方で、未だ防災士としての活動が行われていない地域もあるため、防災士が学んだ知識・ノウハウを地域に伝達していく役割を担えるようフォローアップが必要</p>
青少年育成課	<p>キッズスクエアでは、地域住民(各約30名)にスタッフとして、子どもたちの見守り等を担っていただき協力を得ている。(8小学校のうち6小学校)キッズスクエアが地域住民にとって社会参加の機会となっている。(①, ③, ④)</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>スタッフの中で中心役となるマネージャー自らがキッズスクエア運営を積極的に進めていけるよう、サポートしている。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>地域住民がスタッフで運営している小学校は、日頃挨拶したりするという絆の構築にもつながっているため、現在、地域住民がスタッフとなっていない小学校についても、地域の新たな人材発掘を行い、キッズスクエアの体験プログラムやスタッフとしてより多くの方に参加していただけるよう働きかけたい。</p>

(4) 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備事業において、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）が、介護予防・通いの場づくり事業の推進も担い、様々な活動や居場所を紹介することで、地域住民が地域福祉活動を始めるきっかけづくりを行った。（①，②，⑤） 芦屋市介護予防・通いの場づくり事業の活用所数 7件（11月末時点）（②，⑤） 生活支援体制整備事業において、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）が把握している様々な拠点についてまとめた「つどい場ガイド2018」を作成し、三師会や関係機関に配布し、周知に努めた。（④，⑥） 「わがまちベンチプロジェクト」では1町に1台のベンチ設置を目標に掲げており、ベンチ設置についての声掛けを行った。（⑤，⑥） 居場所や地域活動の促進について、広報あしやへの掲載、チラシの配布、広報番組の放映等により周知を行った。（⑥） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の周知だけでなく、活用している居場所の周知用にチラシを作成し、配布を行った。（④～⑥） ベンチ設置の際の補助制度について、整備いただきやすいよう整理した。（⑤） <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なかよしベンチ」は1町1台設置することを目標に掲げているが、現在12か所計19台の設置にとどまっているため、目的と存在をもっと周知していきたい。 事業の更なる周知 居場所を活用していただけるような工夫
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉センターのエントランスホールがだれもが集える場となるように、毎月エントランス・コンサートを実施している。休憩時間や内容に手話歌を取り入れ、手話や福祉センターに親しみをもちもらえるよう取り組んでいる。その他季節の行事としてクリスマスツリーやひな人形の展示などを行った。（②，③，⑥） 花苗植替作業時に、総合相談窓口利用者に作業の参加を呼びかけ、社会参加を促した。（③，⑥） 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>エントランス・コンサートの開催が11月で通算100回を迎えたので、記念誌「エントランス・コンサートのあゆみ」を作成し、100回記念コンサートを開催した。（②，③）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>10月に開催予定のエントランス・コンサートを、「ハロウィンコンサート（仮称）」として、複数のグループに出演してもらい、幅広い年代の方が気軽に参加できるように企画を行う。</p>
障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ雇用では2名の精神に障がいのある人を雇用し、インターンシップでは芦屋特別支援学校の高校生1名を受け入れた。（①，③） 「年末のつどい」、「ケーキの街芦屋」、「障がい児者 作品展」などの事業を実施した。（①，④） 地域生活支援拠点（高浜町ライフサポートステーション）の整備に関するサポートを行った。（⑤） 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジ雇用では、障がいの特性に考慮した作業の提供、勤務の緩和などに配慮し、個人的なお困りについても相談に応じた。（①，③） 「年末のつどい」では障がいのある人が参加したいと思えるような参加型のイベントを実施した。（①，④） 地域生活支援拠点の整備のため、事業主との定例会を毎月実施し、課題等の共有を図った。（⑤） <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害福祉課以外の所属で勤務できるような環境づくり 【年末のつどい】でのプレゼントの質の向上について、授産品を提供していただいている作業所に提案する。 地域生活支援拠点については、引き続き事業主と課題等の共有を図り、市民にとって利用しやすい施設運営を提案していく。
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> 小学校内にある「ゆうゆう倶楽部」を高齢者中心のグループに開放し、つながりの拠点づくりを支援した。（②，⑤，⑥） 高齢者の団体等が地域福祉活動を推進できるよう各種補助金にて支援した。（⑤，⑥） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミスク活動等地域活動のために利用できるように利用条件の見直しを行った。（①，⑤） 集会所に協力を得て、「ゆうゆう倶楽部」のチラシを集会所に置くことで活動場所を求める方への周知を行った。（②，⑤，⑥） <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>「ゆうゆう倶楽部」利用者の増加</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
ハートフル福祉公社	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の交流事業としてバスツアーを実施 ・大東L S Aにおけるひだまり喫茶の実施 (①, ②, ④, ⑥) 	C	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>バスツアーは参加者が少なくなってきており、平成30年度をもって終了</p>
子育て推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員の協力により市内5箇所で「あい・あいるーむ」を開催し、乳幼児の親子のつどいの場として定着している。(①) ・地域子育て支援拠点を1箇所から3箇所に増やし、身近な場所に居場所を開設した。(③) ・市立幼稚園2園で、「なかよしひろば」を開催した。(③) ・1歳までの乳児対象の「カンガルークラブ」を開催し、毎週金曜日2か所で実施した。(③) ・2歳～4歳児を対象にした「あそぼう会」を行った。(③) ・子育て自主活動グループごとに活動支援を行い、活動活性化を図った。(⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間のこども園に地域子育て支援拠点を拡充し、多様な乳幼児の居場所を開設した。(③) ・あい・あいるーむを乳幼児の居場所づくりとして1箇所場所を変更し、より身近に居場所を開設した。(③) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あい・あいるーむ」の事業周知に努める。 ・自主活動グループが継続して活動していけるようにグループ訪問などを定期的に行い、フォローの必要なグループには、子育ての情報交換、適切なアドバイスを提供し、グループ育成に力を注ぐ。 ・今以上に多くの子育て世代の相談が見込まれるため、子育てに対する負担感、不安感を少しでも軽減し、こどもへの虐待の未然防止や少子化に貢献していく体制を整える。子育て支援拠点を市内に整備していくことで、より地域に近い場所で相談を受ける環境を整えていく。
市民参画課	<ul style="list-style-type: none"> ・13地区集会所が地域のつながりの拠点としての役割も担っている。(①) ・月1回「ふれあいカフェ」を開催し、団体の活動の場を提供した。(①～④, ⑥) ・「市民活動フェスタ」を開催し、個人としてできることを見直す機会を設けた。(③, ④) ・中学生のトライやる・ウィークの受け入れや、子どもボランティアの立ち上げ、高校生・大学生による清掃ボランティア実行委員会の運営など、学生の育成に努めた。(③～⑤) ・「冬のふれあいギャラリー」を開催し、団体間、団体と市民とのふれあいの場を持った。(③, ④, ⑥) ・あしや市民活動センターの相談で、コミュニティビジネスの伴走型支援を行い、立ち上げまでを支えた。(③, ⑤, ⑥) ・あしや市民活動センター登録団体に活動報告書を求め、必要に応じヒアリングを行う中で、課題分析を行った。(⑤) ・あしや市民活動センターの相談で、助成金等の情報提供を行い支援した。(⑤, ⑥) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各集会所運営協議会が集会所ごとにイベントを行うなどして、つどい場として利用してもらえるよう周知を行った。(①～④) ・あしや市民活動センター登録団体への登録についての説明会や団体同士の交流会を実施した。(③, ④) ・個人、団体の活動の見直しや活動できる場を学びやカフェなど様々な形で提供した。(③, ④, ⑥) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が固定化されないように工夫する。 ・あしや市民活動センター市民活動団体の構成員の高齢化が進んでおり、年齢や分野に合った内容の情報や場を提供できるプログラムを計画する。 ・個人や団体の持つ特性のネットワークを構築する。 ・平成31年4月にあしや市民活動センターがリニューアルオープンするにあたり、新たな機材の導入などから、新たな団体の活動を支援する。
上宮川文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・教育啓発活動いこいの間事業を実施している。(毎週木曜日に実施している「ひかりかふえ」、「盆踊り」、「ふれあいフェスタ等」による世代間、市民交流。) (①, ②, ④～⑥) ・子育て支援センター事業「つどいのひろば(もこもこ)」の部屋貸しをしている。(①, ③, ④, ⑥) ・民生委員・児童委員と市民のパイプ役として、常に行政や地域包括などの関係機関と連携している。(①, ③, ⑤) ・児童センターの事業は、幼児から児童までを対象とし、子育ての相談事業も実施している。また、図書室と絵本を親子で読むスペースを設置している。(①, ③, ⑥) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>図書室の利用促進のためのPRをした。(①～⑥)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>更に関係機関との連携を深めること。</p>

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
建設総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯グループ（57団体）に対し、充実した活動を行えるよう、補助金を毎年2万円（1団体あたり）助成（⑥） ・防犯グループが年3回集まる会議を開催し、活動支援のため、生活安全等に関する情報発信を行う。（⑥） ・自治会等の申請に基づき、防犯カメラ設置費用を平成30年度は1件助成（ただし、県の申請に基づき、県市それぞれ8万ずつ助成）（⑥） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 会議や書面を通じて補助金の支給について周知を図った。（⑥）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 防犯グループの担い手不足</p>
公園緑地課	<p>昨年度整備工事を行った宮塚公園において、地域のつながりの場としての利用を促進するため、定期的な地域イベントの促進を行った。（⑥）</p>	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 イベントを行うに際してのルール作り等を、地域住民と協同して行い、地域のイベントとなるよう協議を行った。（⑥）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 現在は特定の非営利団体が率先してイベントを行っており、そこに地域が参加する形であるが、地域主導のイベントが行えるよう、引き続き協議を重ねるとともに、行政が行うべき整備についてはニーズを把握し行っていく。</p>
学校教育課	<p>公立幼稚園では、地域のボランティアの方から絵本の読み聞かせや英語で遊ぼうなどの活動に来ていただき、交流を深めている。（④）</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・「英語で遊ぼう」未実施の幼稚園にも、英語ボランティアを派遣し、公立全園で実施できるようにした。また、近隣の就学前施設の子どもたちに対して、英語に触れる機会がもてるように呼び掛けた。（④） ・就学前施設との円滑な接続に向けた「小学校ごっこ」において、新たに地域の図書ボランティアにも先生役として参加していただき、事業を実施した。（④）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・「英語で遊ぼう」については次年度も継続して取り組みたい。 ・「小学校ごっこ」においては、ボランティアの方との事前の調整等をし、参加していただく人数を増やしていきたい。</p>
生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・コミスクや学校支援ボランティア（学校の環境整備などを支援するボランティア活動）の地域活動、団体間のネットワーク活動の支援（⑤、⑥） ・コミスクに対する補助金の助成や、コミスク及び学校支援ボランティアへの助言等支援を行っている。（⑤、⑥） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 継続した支援が必要（⑤、⑥）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 コミスクや学校支援団体の地域活動、団体間のネットワーク活動の支援を行う。</p>
青少年育成課	<ul style="list-style-type: none"> ・市内8小学校のうち6小学校のキッズスクエアにおいて、高齢者を含む地域住民（各約30名）にスタッフとして、子どもたちの見守り等を担っていただき協力を得ている。（①、③、④） ・市内8小学校の子どもたちへ登録を促した結果、公立小学校の約半数の子どもたちが登録しており、放課後の居場所として定着している。（①、④） 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 多くの子どもたちに参加してもらえるよう、子どもたちの興味がありそうなプログラムを検討して実施した。（シルバー人材センターのプログラミング教室や企業と連携したプログラム等）（④）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 高学年や私立に通う子どもたちの参加については、人数が少なく課題である。今後は、私立の子どもたちへ周知するとともに、私立公立の垣根なく、地域全体で参加できるような魅力的な居場所作り及びプログラムを実施して登録者数の増加に繋げたい。</p>

(5) 健康づくりやいきがづくりの活動を進めます

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備事業において、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）が、地域活動や地域イベントへの参加・参画等を通して様々なサポートを行い、地域活動の活性化に取り組んだ。(5) 地域支え合い推進員が区域内で行われている活動者を集めた交流会を平成31年1月に開催(5) 福祉部の人材育成の機会や行政改革に係るプロジェクト・チームの活動の一環として、地域のイベント活動のサポートとして参画した。(5) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>既に活動している人同士の交流の場を設定した。(5)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>様々な機会を通じて、地域活動の活性化に取り組む。</p>
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋市の事業や団体の活動場所としての貸室事業を行っている。(1, 2, 6) 健康づくりの場所となるよう、運動室の一般開放や水浴訓練室の開放事業を行う。(2) 貸室利用について、案内リーフレットを更新し公共施設に配架を行う。また福祉センターだよりやホームページで記事として掲載を行う。(6) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>一般の貸室利用が少ない調理・実習室を取上げ、記事として掲載し、周知に努めた。(6)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>貸室利用を促進するために、周知啓発を行う。</p>
障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい市民運動会を実施(1, 2, 4) 県の障がい者スポーツ大会へ各種目に随行(2) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害福祉課職員を中心に、行政職員・学生・福祉団体など様々な関係者が参加できるような運動会とした。(1, 2, 4) 県の各種障がい者スポーツ大会では、より参加しやすいように会場までの送迎について手配した。(2) 運動会実施にあたり、高校・大学生などの学生ボランティアの参加を促した。(4) 企画として2018年福男の方を招待し、ともに運動会を盛り上げてもらった。(4) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>ふれあい市民運動会については、障がいの有無にかかわらず、より多くの市民の方に参加していただけるよう、周知方法・運営方法を見直していく。</p>
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ連合会と共催で高齢者スポーツ大会を実施した。(1, 2, 4, 6) 老人福祉会館や集会所等において高齢者生きがい活動支援通所事業を実施している。(2~4) 各地域で介護予防教室「さわやか教室」を実施するとともに、自主グループ立ち上げのために、トレーナー派遣事業を実施するなど自主グループの活動推進に取り組んでいる。(2, 5, 6) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施の少ない潮見圏域において新たな教室を実施した。(2~4) トレーナー派遣事業では、利用促進のためのチラシを作成した。(5, 6) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者生きがい活動支援通所事業について、実施が少ない圏域での実施回数の増加 地域で介護予防に取り組む自主グループの増加
市民参画課	<ul style="list-style-type: none"> 13地区集会所にて、地域活動を行っている。(1~4) 地域住民を講師として招き、企画を行っている集会所もある。(1~4) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>定期的を開催することにより交流の場としての地域住民の認知度が高まり、健康だけでなくつながりをつくる場としての役割も果たしている。(1~4)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>集会所運営協議会主催のイベント開催を支援する仕組みを作成したので、活用されるように働きかけていく。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
上宮川文化センター	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習，学校の勉強の場として自習室を設けている。(①，⑥) 保健師が健康面，介護面の相談業務を実施している。(②) 健康課と連携して特定健康診断の会場を提供している。(②，⑥) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> 高齢者が増加しているため，各機関との連携を強化した。(①～⑥)
			<p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> 更に関係機関との連携を深めること

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標4 ニーズに気づき，支援につなぐ

【取組・評価の視点】

- ①“困りごと”を早めに発見する ②適切な相談窓口や支援につなぐ ③気軽に相談できる多様な相談先をつくる ④相談を適切な支援につなぐ ⑤相談を解決につなぐ仕組みを強化する

(6) “たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 7月よりヘルプマークの配布を始め，12月末現在でマーク254個とカード264枚を配布(④) 地域発信型ネットワークに位置づけられた会議体の運営を担っている社会福祉協議会と連携し会議開催の支援をし，小地域福祉ブロック会議開催に係る拡大事務局会議を20回，小地域福祉ブロック会議を4回，地域ケアシステム検討委員会を2回開催し，延べ417人の方が参加した。(①) 親子の仲間づくりや情報交換の場として民生委員・児童委員，主任児童委員による「あい・あいるーむ」を実施し，大人373人，子ども389人が参加した。(①～④) 民生委員・児童委員が，高齢者，障がいのある人，子どものいる家庭の困りごとの相談，見守りを推進，行政のパイプ役として活動し，必要な機関につなぐことができるように，研修，講演等を実施し，連携強化を図った。(①～⑤) 児童に係る問題は主任児童委員や子育て推進課を含めての会議を年5回開催し情報共有や報告を行っている。(①，②，④，⑤) 地域の会議体において，各地域での課題について話し合い，解決に向けた取組を共有している。(①，⑤) 在宅医療・介護連携支援センターを設置し，医療や介護の関係機関等からの相談を85件受け付け(12月末時点)，連携調整や，情報提供を行うことで，地域における包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を支援した。(②，③) 毎年，「福祉を高める運動研究会」にて，支援が必要な世帯に対し，民生委員・児童委員が行った調査をもとに行政・各関係機関とともに情報共有を行っている。(②，④，⑤) 保健師等による1か月訪問時や4か月児健診にて，民生委員・児童委員等子育て応援団による赤ちゃん訪問の周知・啓発を実施(③) 生活支援体制整備事業において，地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター)が，地域資源の把握や地域住民のニーズ把握に取り組んだ。(③，⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> ・「あい・あいるーむ」にて，保健師の訪問回数を月1回から月2回に変更したことにより，昨年度と比べ参加人数が187人増加し，親子が地域につながる一助となった。(大人90人，子ども97人)(③) ・地域発信型ネットワークが地域の活性化につながるよう，企画段階から地域の方に参加していただいた。(⑤)
			<p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> ・市民や職員のヘルプマークの認識不足により身につけていても配慮してもらえないとの指摘があり，十分に浸透しているとは言えない現状であるため，今後も周知，啓発を継続する。 ・地域発信型ネットワークの浸透と推進を図る。

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
障害福祉課	民生児童委員協議会障がい者部会の中で、障がいのある人の生活状況・支援方法・困っている人をつなぐ場等について説明を行った。(②, ④)	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 説明者として障害福祉課職員のほか、地域における障がい者相談支援事業の中核を担っている芦屋市基幹相談支援センターの職員にも参画していただき、より地域の実情に沿った説明を行った。(②, ④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 民生児童委員協議会だけにとどまらず、様々な機会を捉えて障がい理解の啓発に努めていきたい。</p>
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> ・各イベントにて、「たすけ上手」になるために、認知症に関する絵本の読み聞かせを実施し、子どもから大人まで、広く認知症の早期発見、相談、理解につながるよう周知に努めた。(①～③) ・認知症ケアネット「あしや認知症ほっとナビ」を作成し、周知に努めた。(①, ②, ④) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・各イベントで、様々な発信をして情報を分散するのではなく、認知症の人の早期発見のために、気づきに重点をおいた周知を実施した。(①～③) ・認知症に関する資源を記載した認知症ケアネットを作成することで、相談があった際に、体系的な説明ができるようになった。(②, ④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 市主催のイベントだけでなく、住民主体のイベントにも参加し、認知症の周知を実施する。</p>
子育て推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発街頭キャンペーンとして11月の「DV防止推進週間」、「児童虐待防止推進月間」に加えて「いじめ防止推進」の活動を、それらを支援する市民団体等と所管課（男女共同参画推進課、子育て推進課、地域福祉課、教育委員会）が協働で実施した。(①) ・いじめ防止の啓発活動を通して、大人には「子どものSOSに気づいてほしい」、子どもには「いじめは許されないことである」と呼びかけ、同時にチラシやグッズを配布して相談場所の周知に努めた。(①, ②) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 いじめ防止の取組を市全体に広く周知するため、街頭キャンペーンの他、市内の小・中学生から「いじめ防止のあいうえお作文」を募集したり、スクール・ソーシャル・ワーカーによる講演会を行ったりした。(①, ②)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・啓発事業のマンネリ化を防ぐため、児童生徒の興味関心を引き出し、いじめ防止の意識を高められるような取組の検討が課題である。 ・学校現場や教育委員会と連携し、子ども自らがSOSを発信できる環境や、周囲がSOSに気づける環境づくりを進める必要がある。</p>
健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・各種保健事業終了時におけるアンケートを実施し市民ニーズの把握に努めた。(①) ・市民からのニーズや支援を必要とする方への情報提供に努めた。(②) ・市民ニーズ把握の結果から土曜日開催のみであったプレおや教室を日曜日開催の日程を追加し実施した。(⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 日曜開催のニーズがあったため、プレおや教室の拡充を実施した。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 日曜開催を実施したが、参加者数は想定より増えなかった。ニーズの詳細を再確認する必要がある。</p>
お困りです課	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援機関等の情報収集に努めるとともに、相談者からは丁寧にお話をお伺いして、適切な相談窓口につないだ。(①, ②, ④) ■ 専門相談の実施(③) <ul style="list-style-type: none"> ・家事相談(専門相談員) 毎週水曜日13:00～16:00 ・法律相談(弁護士) 毎週木曜日13:00～16:30 ・法律相談(司法書士) 毎週金曜日13:00～16:00 ・行政相談(行政相談委員) 毎月第3水曜日13:00～16:00 ・土地と建物の登記相談(土地家屋調査士) 毎月第1火曜日13:00～16:00 ・公正証書相談(公証人) 毎月第2火曜日13:00～16:00 ・不動産相談(宅地建物取引業協会相談員) 毎月第3火曜日13:00～16:00 ・税務相談(税理士) 毎週月曜日13:00～16:00 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 相談できる内容がわかるよう、具体的相談事例を記載したミニチラシを作成した。(②)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 日常生活上のお困りごとを抱える市民に対し、有効な相談先を案内しているが、心の悩みを話して気持ちの立て直しを図りたいと考えている方が増えているため、専門家によるこころの整理相談を実施する。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
人権推進課	・毎月第2, 第4火曜日午後に特設人権相談所を設置し人権擁護委員による相談事業を実施した。 開設回数18回(12月末現在) 相談件数12件 相談所開設の広報は, 広報紙, HPの他, まちなびや市民課窓口案内システム, 庁内放送で案内している。 (①～⑤)	B	【今年度工夫・努力したこと】 人権啓発事業を実施する際に, 人権相談に関するチラシを配布した。また, 広報番組の特集(12月後半)にて人権擁護委員の活動を紹介し, 相談事業の周知に努めた。(①～⑤) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・様々な相談に対応するため, 人権擁護委員を増員し, 相談体制の充実を図る。 ・広報やホームページだけでなく, 講演会や映画会等で相談案内チラシを配布し, 周知を図っていく必要がある。
地域経済振興課	・出前講座や消費生活セミナーを開催し, 流行のトラブルや見守りの観点について啓発を行った。(①, ②) ・消費生活サポーター講座を実施し, 地域での見守りのポイント等を学ぶ機会を提供した。また, 消費生活トラブルで困っている方を見つけた場合, 消費生活センターを案内していただけるよう, センターの機能について啓発した。 (①～⑤)	A	【今年度工夫・努力したこと】 ・消費生活サポーター講座の一部を公開セミナーとし, サポーターの活動について周知した。(③) ・昨年度の受講者も自由参加できるようにし, フォローアップした。(⑤) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 受講したサポーターの方々が個人としての見守り活動だけではなく, グループとして活動することにより, 継続性を持つ事業にする。
上宮川文化センター	・行政手続き他の相談業務(①～⑤) ・子育てフリー相談の実施(①～⑤) ・保健師による健康相談(①～⑤) ・民生委員・児童委員, 地域団体と一緒にの地域の見守り支援事業の展開(①～⑤) ・困難な状況にある者の情報が入れば, 家庭訪問を実施する。(①～⑤) ・保健・医療・福祉と地域の連携(①～⑤) ・困難な状況にある者やその家族の存在は身近な地域や知人が把握しているので, 早期発見し当センターや相談窓口につないでいる。(①～⑤)	B	【今年度工夫・努力したこと】 ・民生委員や各種団体との連携を密にするよう意識して実施した。(①～⑤) ・地域に根ざした相談窓口としてニーズの把握に努めている。(①～⑤) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・相談体制の充実 ・関係機関との更なる連携を深めること
水道業務課	・水道メーター検針時(2か月に1回)や徴収訪問時に異常を確認した場合は, 市担当者に報告するよう徹底している。(②) ・異変を感じたら安否確認をするか関係機関につなぐ。(②)	B	【今年度工夫・努力したこと】 毎月1回検針員を集めて定例会を開き, 周知徹底を行っている。(②) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 今後も継続して実施する必要がある。

(7) 総合相談の仕組みとネットワークを充実します

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護に関する出前講座を2回開催し、特に成年後見制度について学び、周囲の人で認知症等で困りごとがある人がいた際には相談することで解決できる問題があることを理解していただく機会を提供した。(①, ②) ・福祉センター総合相談連絡会において、ケースの検討や各機関の機能の共有を図った。(②, ④, ⑤) ・総合相談窓口の初回スクリーニングを見直し、生活困窮者自立相談支援事業を関係機関のひとつと位置付けたことで、総合相談窓口と自立相談支援事業の違いを明確化した。(②, ④, ⑤) 	A	【今年度工夫・努力したこと】 ・成年後見制度を分かりやすく理解するための工夫（紙芝居）をした。(①, ②) ・総合相談窓口のスクリーニングを見直し、相談者の特性を把握できるよう、調整した。(②, ④, ⑤)
			【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・相談者の特性から新たな社会資源の検討を行う。 ・総合相談窓口の更なる周知に取り組む。 ・権利擁護支援業務の遂行に関係する金融機関との情報共有等の連携
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口の周知啓発のため、福祉センターだよりに毎月掲載し、地域のイベントでチラシ等啓発用品の配布を行う。(①) ・総合相談窓口の機能の充実と連携を深めるため月1回の相談連絡会、事前の意見交換に参加している。(②～⑤) 	B	【今年度工夫・努力したこと】 ・保健福祉センターパンフレットやポケットティッシュ等啓発用品を作成し、総合相談窓口のチラシと共にイベント等で配布、周知に努めた。(①) ・総合相談窓口を中心とした福祉の相談窓口としての機能の向上のため、各機関や新たな事業についての機関・事業紹介を、総合相談窓口連絡会で行っている。(②～⑤)
			【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 福祉の総合相談窓口としての機能の周知を今後も行っていく。
生活援護課	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮状態にある世帯の情報を(本人の了解を得たうえで)関係機関で共有するなど、相談を受けた際の事前情報を充実させる。(②) ・他機関に相談をつなぐ場合、事前情報を的確に伝え、相談者の負担を軽減する。(④) 	A	【今年度工夫・努力したこと】 ・生活保護の窓口で受ける相談事例を振り返り、ネットワークの可能性について課内で検討した。(④) ・生活困窮者自立支援制度連絡会議を2か月ごとに開催し、社協、事務局と情報交換を始めた。(⑤) ・2か月ごとにある生活困窮者自立相談支援事業事例検討会に参加し、生活困窮と生活保護とに関連している事例について助言を受けた。(⑤)
			【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・滞納や借金、社会的孤立等金銭給付や貸付けだけでは生活の再建につながらない課題を解決する仕組みづくり ・見えない障がいの可能性がある者への支援の方法
障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・市内相談支援事業所の人材育成のために研修等を開催した。(⑤) ・市内相談支援事業所を増やすために市内事業所に対して声掛けを行った。(⑤) 	A	【今年度工夫・努力したこと】 相談支援専門員の知識の底上げを図るため、芦屋市基幹相談支援センターが中心となって、計画相談業務マニュアルを整備した。(⑤)
			【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 慢性的な相談支援専門員の不足を解消するため、引き続き市内事業所に対して相談支援事業所の開設を促していきたい。

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域見まもりネット」を周知することで、高齢者の異変を早期に察知できる体制を作った。(①, ②) ・高齢者の相談窓口である高齢者生活支援センターについて広報紙やホームページによる周知のほか、高齢者生活支援センターにおいても高齢者や関係機関が集まる地域の行事等に積極的に参加する等、地域の身近な場所で機会を設けて周知活動を行っている。(①～⑤) ・地域からの情報提供や発信に対応し、関係機関につないでいる。(④, ⑤) ・ICTを活用した民間の認知症高齢者の見守りサービスの利用料を助成する「認知症高齢者見守りシステム利用助成事業」を実施した。(⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 高齢者の異変を早期に発見できるように、宅配事業者の「地域見まもりネット」への登録を促進した。(①, ⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・地域見守りネットについて宅配事業者だけでなく、銀行、商店及び高齢者と直接対応する事業所にも周知活動をする。 ・認知症高齢者見守りシステム利用助成事業について、市民も含めた幅広い見守り支援となるよう周知・啓発を行う。</p>
子育て推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待防止について、保健福祉フェアやこどもフェスティバルでの広報活動や、街頭キャンペーン、支援者研修などの啓発活動を行っている。また、子育てセンターの事業を充実することで、育児の孤立化の防止や啓発を進めている。また、市民向け啓発リーフレットの活用や関係機関との連携により、気軽に相談できる環境の整備に努めることができた。(①) ・前年度に引き続き、公立保育所で勤務経験のある保育士資格を有する職員を専門相談員「保育コンシェルジュ」として配置し、保育所等の入所相談及び子育て相談を実施した。(②, ④) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・子ども向けと親向け両方の啓発グッズを作り、児童や保護者に対して周知を行った。(①) ・保育所の入所相談の他、子育て支援に係るサービスの紹介等を行った。(②, ④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・子育て支援事業や子どもに関係する機関との連携により、迅速な対応を行っていく。また、日頃からの連携を強化していくことで、虐待の予防にも取り組んでいく。教育と福祉が連携できる環境を整えていく。 ・児童虐待防止のキャンペーン実施に向けた関係機関への呼びかけと活動の定着のため継続した取組を実施していく。 ・児童虐待防止のキャンペーングッズ配布等により、関心をもってもらえるような取組を検討していく。 ・利用者支援事業の充実に向けて、保育所等への入所相談に限らず、様々な子育て支援サービスの情報提供を行ったり、申請に係る各種手続きの案内を行ったりするなど、切れ目なく支援ができるように努める。</p>
健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児発達相談における福祉・教育等の関係機関との連携を行った。(②) ・妊娠・出産・子育ての身近な相談窓口として「子育て世代包括支援センター」を開設し、切れ目のない支援が出来るよう仕組みを強化した。(③) ・福祉センター総合相談連絡会出席による社会福祉協議会等の関係機関との連携を行った。(⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・「子育て世代包括支援センター」は今年度で新規開設のため、保育所・幼稚園にも協力をいただき、周知に力を入れた。(③) ・各関係機関と情報共有する機会を増やし、連携の強化に努めた。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・切れ目のない支援、適切な支援を提供できるよう、関係機関との更なる連携を図る。 ・継続して連携を強化するよう努める。</p>
市民参画課	<p>(あしや市民活動センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の多種多様な団体と地域の課題解決の場を持ち、市域の団体間の課題を共有し、ネットワークの強化を図った。(①～⑤) ・団体の印刷や缶バッジ作成など広報支援を行いながら、団体の困りごとをキャッチするよう努めている。(①～⑤) ・年間400件以上の相談を受け、内容によっては福祉施設等との連携で解決に努めた。(②～④) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 日本多世代交流学会での活動の発表の場を持ち、ネットワークのつながりを深めるよう努力した。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 今年度同様の取組を継続していく。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
男女共同参画推進課	配偶者等からの暴力被害者支援のため、相談機能や連携体制の充実を行う。(①～⑤)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>婦人相談員が研修などに参加し、相談の質の向上に努めた。(①～⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>連携体制の充実</p>
地域経済振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者関連施設（高齢者生活支援センター、サービス事業所、権利擁護センター等）の従事者へ出前講座を実施し、流行のトラブルや見守りの観点について啓発した。(①, ④, ⑤) ・消費生活センターに相談があった案件について、福祉の支援が必要と判断した場合は、総合相談窓口を案内した。(②, ④, ⑤) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>施設の利用者等が消費生活トラブルにあった際に、本人に消費生活センターに相談していただくよう案内したほか、本人が直接相談できない場合は、従事者へ情報提供を行った。(④, ⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>適切な相談窓口や支援につながるよう、イベントやセミナー、広報等により、消費生活センターについて周知を行う。</p>
上宮川文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の相談窓口や相談支援機関の連携を行っている。(①～⑤) ・民生委員・児童委員や老人会役員も含めた地域見守り会が各地域の独居高齢者などの世帯を見守り、認知症が疑われる方などについては当センターに連絡をしていただけるような仕組みづくりを行っている。また、必要な関係機関につなぐなど横断的、重層的に継続支援ができるよう連携している。(①～⑤) ・地域に根ざした相談窓口として市役所の相談窓口等や相談支援機関との連携を行っている。(①～⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>地域に根ざした相談窓口としてニーズの把握に努めている。(①～⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談者のニーズを的確に把握し他課との連携を図る。 ・地域の多様な相談への対応や専門的な窓口へつなぐなど情報提供や連携を強化する。 ・問題解決できるように、各種相談機関のネットワークの充実を図る。
芦屋病院	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に相談できる“かかりつけ医”をもつことを推奨する一環として、「かかりつけ医カード」を作成し、患者が自由に持ち帰れるよう、地域連携室前に設置した。(②, ④) ・芦屋病院の医療相談室では、外来・入院の患者・ご家族を対象に、よろず相談として治療内容や費用面など心配事に随時対応した。(③) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢介護課が発行している冊子を活用し、随時介護サービスなどの問い合わせに対応(②, ④) ・ニーズに合わせて、年々数を増やし、現在「かかりつけ医カード」を使用して99医療機関を紹介している。(②, ④) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>継続実施</p>
学校教育課	相談者の多様なニーズに適切に対応するために、打出教育文化センター、適応教室、カウンセリングセンター、特別支援教育センターに相談窓口を設置して、困ったときに相談支援ができる体制作りを行っている。(③, ④)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>相談窓口の案内ポスターを作成し、学校に掲示し、各相談機関の周知を行った。(③)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>相談者のニーズに応じて、どの相談窓口を利用すればよいのかということも含めた、市民への各相談機関の周知（私立校に通う方が相談できる窓口としては、カウンセリングセンターや愛護センター所管のアサガオを紹介）</p>

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標5 多様な“困りごと”を包括的に支えるサービスや活動を充実する

【取組・評価の視点】

- ①「公」のサービスの内容や提供体制を充実する ②地域の多様な力を活かした活動を推進する ③新たなニーズや狭間のニーズなどに対応する ④担い手を増やす・支援する
- ⑤多様な主体や分野を超えた協働を進める ⑥複雑な課題を解決する取組を進める ⑦効果的で適正な情報共有を進める ⑧自立を支援するサービスや活動を進める ⑨担い手の意識やスキルを高める
- ⑩利用者や第三者の意見を活かす

(8) 分野別計画を地域福祉の視点で推進します ★

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、保健福祉センターの管理運営に取り組んでいる。相談窓口やエントランス事業をはじめ、地域福祉の拠点として機能の強化に努めている。(①) ・保健福祉センター内水浴訓練室で、障がい・ぜんそく症状のある子どもの訓練事業、高齢者の介護予防事業や障がいのある人・障がいのある子ども・ぜんそく症状のある子ども・高齢者の開放事業を実施している。(①, ⑧) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>保健福祉センター内水浴訓練室での事業において、安全に運営できるよう、ヒヤリハット報告を毎月もらうようにして、安全意識の継続を図った。(①)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>地域福祉の拠点として今後も継続して管理運営を行い、安全面での意識の継続を図るよう努める。</p>
障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 障がい福祉サービス提供事業所間の横の連携を強化するため、「芦屋市障がい児者福祉事業所連絡会」を設置した。(②, ⑤, ⑨) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>障がい福祉サービスを提供している市内の全事業所に連絡会の参加を呼び掛けた。連絡会における取組内容については、行政が決めるのではなく、連絡会に参加した方で決めてもらった。(②, ⑤, ⑨)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>意見の中で、研修等人材育成について事業所間で連携を図っていきたいという意見があったため、市内事業所で実施されている研修会の情報提供等に取り組んでいきたい。</p>
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> 第8次芦屋すこやか長寿プラン21について、地域の様々な福祉関係者等から地域福祉の視点も踏まえた評価を受けながら推進している。(①) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>第8次芦屋すこやか長寿プラン21評価委員会を開催し、高齢者を地域で支えるための施策が計画に沿って実施できているか評価を行った。(①)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>引き続き計画に記載する、高齢者を地域で支えるための施策の進捗状況について評価していく。</p>
子育て推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期子育て未来応援プラン「あしや」の策定に向けて教育・保育・子育て支援に関する各施策の今後の取組を検討するため、市民にアンケート調査を実施した。(①, ③, ⑩) ・子育て未来応援プラン「あしや」(子ども・子育て支援事業計画)の関係事業所管課へ前年度の事業取組実績の照会を行い、結果を取りまとめて子ども・子育て会議において報告し、計画の進行管理を行った。(①, ③, ⑩) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民へのアンケート調査実施のため、委託業者と複数回に亘り連絡調整を行って設問内容案を精査し、子ども・子育て会議で諮った。(①, ③, ⑩) ・前年度の子ども・子育て会議での委員意見を踏まえ、評価方法の見直しを行い、関係事業所管課において各事業を量的観点と質的観点に分けて評価した。(①, ⑦, ⑩) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期子育て未来応援プラン「あしや」の骨子案を作成し、パブリックコメントを実施して策定を行う。 ・各事業の「量的評価」と「質的評価」の記載方法にばらつきがあるため、全体の統一を図り、より第三者にわかりやすい表記となるよう努める。

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
健康課	第3次健康増進・食育推進計画を策定し、平成30年度は初年度となるため、周知啓発に努めた。(⑤)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 市ホームページや全戸配布の「保健センターだより」などを活用し、効果的に計画を周知啓発した。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 平成30年度は周知啓発が主だったので、計画の目標が達成できるよう実践に結びつくような取組が必要。</p>
市民参画課	市民参画協働推進計画において、人材の発掘、協働の取組の推進などを掲げている。(②, ④, ⑤, ⑧, ⑨)	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 あしや市民活動センターの改修に伴い、芦屋まちデザインラボとして連続ゼミを開催し、デザインという切り口から市民活動を考えるワークショップを行った。情報発信の際には、新たな人材の発掘を念頭に置いたチラシ・ポスターを作成したほか、連続ゼミの内容を発信するニュースレターを発行した。(②, ④, ⑤, ⑧, ⑨)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 人材の発掘を少しずつ進めてきたので、その後のフォローを次年度も継続していき、計画の策定にも反映していきたい。</p>
男女共同参画推進課	女性に対する暴力をなくす運動等街頭啓発キャンペーンを継続して実施した。市内で活動している団体などと協力し、啓発グッズの配布を行い、女性に対する暴力をなくすための啓発を推進した。(②)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 啓発グッズの内容を精査し、相談カードの配布枚数を減らした。(②)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 啓発グッズの配布だけで啓発の効果があるのか不明である。</p>
地域経済振興課	平成29年に策定した消費者教育推進計画に基づき、自立した消費者及び地域の消費者力向上に向け、消費生活サポーター講座の実施や、出前講座、消費生活セミナーを実施し、地域での見守りのポイントや流行のトラブル等について啓発した。(①, ⑧)	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 流行の手口は日々変化するため、出前講座やセミナーを通じて、常に最新情報の提供を行った。(①)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 適切な相談窓口や支援につながるよう、イベントやセミナー、広報等により、消費生活センターについて周知を行う。</p>
収集事業課	「芦屋市さわやか収集実施要綱」に基づき、利用者の増加に対応しながら、個別のごみ出し支援を継続実施している。また、利用者増加を見据えた収集実施体制の構築及び福祉施策との連携スキームについて検討している。(①, ⑤)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 福祉部局と、「ひとり役運動」との連携に向けた情報交換及び協議を行った。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 利用者増加に対応しながら、更なるニーズ増加に備えて、収集班体制の組替・拡充やひとり役運動の進捗を踏まえての連携を試行導入するなど、長期的に安定した事業継続ができる収集体制について引き続き検討する。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
公園緑地課	・公園遊具の安全点検に基づいて適宜補修等を行うと共に、施設と樹木を一体的に管理することにより、園内全体をバランスよく管理できるように体制を整えた。(①) ・西浜公園のトイレ、前田公園の園路のバリアフリー化を実施している。(④)	B	【今年度工夫・努力したこと】 ・施設と樹木の管理については、これまで市内全体の管理を施設と樹木に分けて別々の担当者が管理していた。しかし今年度途中からは、エリアごとに担当者を分けて、同一公園内の施設と樹木は同じ担当者が管理するよう体制を変更することにより、市民にとって分かりやすく、また園内の調和を図ることができる体制を整えた。(①) ・園路のバリアフリー化に関しては、滑りにくさや歩きやすさを確保するため、舗装材について比較検証を行った。(④)
防災安全課	地域防災計画において、住民による地区防災計画の策定の支援（策定済3町）(②, ⑨)	B	【今年度工夫・努力したこと】 防災マップづくりや災害を想定した図上訓練などを行い、地域における多様な意見を参加者で共有した。(②, ③)
青少年 愛護センター	子ども・若者育成支援の枠組みと困難を有する若者を支援するネットワーク整備を図る「芦屋市子ども・若者計画」が平成31年度末をもって終期を迎える。本年度は次期の「子ども・若者計画」策定のための基礎的データとなる市民アンケート調査に着手した。(15～39歳の無作為抽出3,000人対象)(③, ⑥)	B	【今年度工夫・努力したこと】 アンケート設計において ・実際にひきこもり群を調査によって実態把握することは困難であるので、ひきこもり状態ではないものの、ひきこもり状態と同じ意識傾向をもっている人をひきこもり親和群として分析することで、ある程度ひきこもりの傾向がつかめることを意図した。(③) ・「子ども・若者計画」の目指すところを分かりやすくまとめた「子ども・若者健全育成育成に向けての提言」(H28.1)の趣旨が反映できる設問を盛り込んだ。(①, ⑦)
			【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 次年度に次期「子ども・若者計画」を策定する。

(9) “複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します ★

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者自立支援制度の改正を機に「生活困窮者自立支援制度にかかる窓口対応・相談支援ガイドライン」の改訂を行う。(平成31年3月) (①, ③, ⑤, ⑦, ⑧, ⑩) 個別支援については、各課、関係機関と連携し、必要に応じて、介護や障がいのサービスの提供を含め、協働で取り組んでいる。(①, ⑤, ⑦) 滞納の課題のある生活困窮者の生活再建に向けて、債権管理課と保険課及び社会福祉協議会と支援方法について協議を行っている。(①, ⑤, ⑦, ⑩) 生活保護窓口と生活困窮者自立支援相談窓口との連携強化のため、30年度より連絡会議を開催している。(①, ⑦) ひとり一役活動推進事業において、ひとり一役ワーカーが高齢者の居宅において日常生活でのちょっとした困りごとの援助をすることで、地域での支え合いにより困りごとを解決する体制の整備を行った。(②, ④, ⑨) 支援する世帯の課題は複雑に関連しているため、他部署との連携により支援を進めている。(③, ⑤～⑦, ⑩) 30年度に改正された「生活困窮者自立支援法」に基づく相談事業等を主とし、生活困窮者の支援を行っている。(③, ⑤, ⑥, ⑧) 地域福祉係におけるトータルサポート機能により、虐待対応や生活困窮者支援において、複合多問題等を抱える世帯に対して支援を行った。30年度実績(4～12月)新規120件(内訳:高齢者58件 障がい者11件 生活困窮者24件 制度外27件) (③, ⑥) 生活困窮者の支援の現状・課題共有するための報告書の作成に取り組んでいる。(⑥, ⑦, ⑨) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 庁内連携を強化し、生活困窮者の情報提供を密に行い、早期に窓口につながるような仕組みづくりを行っている。(①, ③, ⑥, ⑦) 在宅活動の増加を目的に、関係機関へ事業説明を行った。(②, ④) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとり一役ワーカーの在宅活動の件数の増加 庁内各課から生活困窮者自立支援相談窓口への紹介件数の増加 生活困窮者自立支援相談新規相談件数の増加
生活援護課	<p>継続ケースについては、さらに連携を継続する。新規ケースについては、初動からケース診断、対応に至るまで関係機関との協議を徹底する。(①, ⑦, ⑧)</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と支援者会議を随時開催した。(⑦) 併せて代表者会議にも出席した。 要保護児童対策協議会 生活困窮者連絡会(阪神間、庁内外) 保健所・警察等地域協議会 <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>複雑な困りごとを抱えている世帯には、各機関が役割分担をし、専門性をもって関わり、早期解決を図る。</p>
障害福祉課	<p>65歳到達時に、障がい福祉サービスから介護保険サービスへの円滑な移行を図るためのシステムづくりの検討を実施(⑥)</p>	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>65歳問題プロジェクト会議を立ち上げ、障がい福祉サービスに携わる職員だけでなく、介護保険サービスに携わる職員にも参画してもらった。(④)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>円滑な移行を図るためのシステムづくりを引き続き検討していきたい。</p>
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> 養護者によるもの、あるいは施設内での虐待を防止するために初期の段階で介入し、迅速な対応に努めている。(①) 権利擁護支援センターや高齢者生活支援センターと連携して高齢者の権利を守る取組を行っている。(①, ③, ⑥) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>改訂した「養護者による高齢者虐待対応マニュアル」の研修を市内の居宅介護支援事業所に向けて実施し、虐待の早期発見への協力を促した。(④, ⑦, ⑨)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>複合的な問題を抱えている高齢者への対応に関する関係機関との連携</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
市民参画課	あしや市民活動センターにおいて年間400件以上の活動運営や、ボランティア活動等についての相談を受け、伴走型支援に取り組んでいる。(④, ⑧, ⑨)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 あしや市民活動センターにおいて施設等、相談に来館できない団体に関しては、訪問相談をし、当事者からのお困りごと、今後の運営を伴走型で行えるよう工夫した。(④, ⑧, ⑨)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 あしや市民活動センターにおいて今年度同様に伴走型支援を継続していく。</p>
上宮川文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が我がこととして互いに気にかけてながら、見守りができる体制の充実(①～⑩) ・行政内の関連する部署と、その都度連携して対応した(①～⑩) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 西山手高齢者生活支援センター等と密に連携して取り組んだ。(①～③, ⑤, ⑦, ⑧, ⑩)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 更に多くの関係機関との連携</p>
芦屋病院	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋病院の医療相談室では、外来・入院の患者・家族を対象に、治療内容や費用面など心配事の相談に随時対応(③, ⑥) ・芦屋病院の地域連携室では、入院の患者・家族を対象に、退院後の住宅支援との連携、施設・転院紹介などを随時実施(⑤, ⑧) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・患者や家族に対して、ニーズに適した社会資源を提供した。(①, ③) ・脳神経センター開設に伴い、多様な電話や窓口での医療相談に対応した。(③, ⑥)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 継続実施</p>
青少年愛護センター	<ul style="list-style-type: none"> ・若者相談センター「アサガオ」の相談業務を火曜日～土曜日(金・土曜日は相談員2人体制)に行い、延べ相談件数938件、対象者数75人(1月末現在)で、すでに29年度実績を上回っている。(①, ⑥) ・また、相談者の親同士の支え合いの場として「親の会」を毎月第1日曜日に開催し、計48人の参加があった。(⑦, ⑩) ・連続セミナー「こころを育てる聴き方・話し方」を6回開催し、計82人の参加があった。(⑧) ・外へ出るきっかけをつくり、人と会話することを目的とした「キ・テ・ミル・会」はゆったりとした雰囲気です話をする、聞く趣旨の会で11回開催し、計32人参加した。(⑧) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・「キ・テ・ミル・会」を男女別に開催し、会話しやすい雰囲気を醸成した。(⑦, ⑧) ・「親の会」に特別支援教育士を招き(ボランティア)、参加者にその知見によるアドバイスを行った。(⑦, ⑧)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・連続セミナー、「キ・テ・ミル・会」、「親の会」を「アサガオ」事業の3本柱と位置づけて継続して実施する。(ピアサポートによる支援の拡大) ・アウトリーチによる相談業務は、実施の可能性も含めて検討する。</p>

(10) 担い手の意識やスキルを高める取組を充実します ★

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次芦屋市地域福祉計画策定の過程で発足されたプロジェクトを地域福祉アクションプログラム推進協議会で取り組むプロジェクトとして位置付け、市民、行政、社協が協働で会議やイベントの開催や情報発信の方法の検討について協議を行うなど、活動を行っている。(②, ④, ⑨) ・保健福祉フェアに参加し、「人と人とのつながり」をテーマに、つながりのある地域を創るために活動を行っている団体の取組を発表していただき、表彰を行う「地域福祉アクションアワードvol.4」を開催した。(②, ⑤, ⑨) ・介護予防・日常生活支援総合事業の生活支援型訪問サービスの従事者研修を2回実施し(12月末時点)、23人(12月末時点)の生活支援の担い手の養成・確保に取り組んだ。(④, ⑨) ・権利擁護支援者養成研修を実施し(19名受講, 2月23日修了), 権利擁護支援の担い手の養成・確保, 権利擁護意識の醸成に取り組んだ。(④, ⑨) ・「介護相談員」として活動している43名の相談員が市内14か所の施設に訪問し, 利用者からの相談に応じている。また, 平成30年度から障がい者施設等への相談員派遣を試行実施し, 8名の相談員が3か所の施設に訪問している。(④, ⑨, ⑩) ・「介護相談員」がスキルアップ研修に参加し, 自己研鑽に努めている。(⑨) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援型訪問サービス従事者研修のチラシを各集会所で配架していただき, 周知に努めた。(④, ⑨) ・新規の取組である, 障がい者施設等相談員派遣事業の実施に向けて, 障がいを理解するための研修, 障がい者施設従事者への事業理解への働きかけを実施(④, ⑨, ⑩) ・今まで参加したことのない地域のイベントはその町の雰囲気を楽しむことができ, 新たな発見があったりするので, 地域福祉アクションプログラム推進協議会PRの目的も含め, 高浜町まちびらきイベントに参加した。(⑨) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や親の介護, 高齢化等により, 民生委員・児童委員のなり手が不足しており, 7人の欠員が生じている。(浜芦屋町, 平田北町, 南浜町については1人も民生委員がいない状態) ・地域福祉アクションプログラム推進協議会の構成員が固定化しているため, 人材の発掘が必要 ・生活支援型訪問サービス従事者研修の受講者の増加 ・障がい者施設等相談員派遣事業の定着に向けた継続的な研修, 働きかけ等の実施
生活援護課	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援員を専門職として採用した。(④) ・職員の資質の向上を図るため, 他法他施策について学びあっている。(⑨) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が社会福祉主事資格を取得するため1年間に及ぶ研修を受講した。(⑨) ・就労支援員が全国大会に参加し, 知識と研鑽を積んだ。(⑨) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労による生活保護自立の実績を伸ばす。 ・課内での勉強会, 他部署と関わる研修会に積極的に参加する。 ・福祉分野のみならず多方面にアンテナを張り巡らす。
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービス事業者の評価の結果等を市民が活用できるよう, 市のHPの改修や運営推進会議での情報発信といった取組を継続実施した。(①, ⑦) ・地域のケアマネジメント力向上に市内の主任ケアマネジャーと連携して取り組んだ。(②, ③, ⑤, ⑦, ⑨) ・65歳到達時に, 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの円滑な移行を図るためのシステムづくりの検討を実施(⑥) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活援助の回数の多い利用者にかかる居宅介護支援計画について, 市内の主任ケアマネジャーを含む多職種と連携して検討する地域ケア会議を試行している。(②, ⑤, ⑥, ⑦, ⑨) ・市内30カ所を超える地域密着型サービス事業所において, 各事業所の運営状況に関する評価の結果や今後の運営方針等について, 地域住民の方々と共に検証する運営推進会議に, 年間100回以上参加している。(⑤, ⑦, ⑩) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試行している地域ケア会議等から把握できる地域課題を踏まえ, 芦屋市のケアマネジメントに関する基本方針を伝えるためのガイドラインを作成する。 ・65歳問題プロジェクト会議では, 引き続き, 円滑な移行を図るためのシステムづくりを検討する。

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
上宮川文化センター	・健康講演会，栄養改善講習会の実施（④，⑨） ・子育て支援事業の実施（④，⑨） ・公共職業安定所（ハローワーク西宮）と連携して，求人情報の提供や職業紹介・職業相談といった就労支援を行っている。（④，⑨） ・多様なニーズに的確に対応できるよう，市役所の相談窓口等や相談支援機関の連携を行っている。（④，⑨） ・個別支援については，各課，関係機関と連携し，必要に応じて，介護や障がいのサービスの提供を含め，協働で取り組んでいる。（④，⑨）	B	【今年度工夫・努力したこと】 地域見守り会での会議等様々な機会を通じて発信している。（①～⑩） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 複合支援ニーズを抱えた世帯の支援を迅速，円滑に行うために，各課，関係機関とのさらなる協働を推進
建設総務課	防犯グループより，担い手（特に若い世代）が不足していることを受けて，会議で話し合いを実施（⑨）	B	【今年度工夫・努力したこと】 青少年育成愛護委員など他団体との交流の場を設け，情報を共有した。（⑨） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 若い世代が中心となって活動している涼風町の事例を，平成31年度開催予定の会議で報告していただく予定
防災安全課	情報収集や避難行動の必要性について，支援者に防災訓練や出前講座を通じて啓発（⑨）	B	【今年度工夫・努力したこと】 参加者に対して一方的な内容ではなく，一人一人が災害時の状況について具体的なイメージをもてるように映像などを用いて啓発した。（⑨） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・要配慮者名簿の受領推進（82団体中29団体受領済） ・要配慮者および支援者のつながりの強化
青少年愛護センター	新規の育成愛護委員を対象に芦屋市内の街並みや巡回事情などを紹介することを目的とした研修会「市内合同バス巡回」を実施した。（6月29日，54人参加）（④，⑦）	B	【今年度工夫・努力したこと】 市内を視察するときに，青少年愛護センター職員だけでなく該当地区の育成愛護委員が互いに地域の説明を行ったこと。（④，⑦） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 地域の情報はやはり該当地域の愛護委員がいち早く把握しているため，相互の情報交換・共有の場をつくる。

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標9 地域福祉をみんなで進める仕組みをつくる

【取組・評価の視点】

①地域包括ケア・地域共生のまちづくり（「我が事・丸ごと」）を推進する ②多様なネットワークをつくり、つなぐ ③「地域福祉のプラットフォーム」を充実する

(11) 「地域発信型ネットワーク」を充実します

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域発信型ネットワークの取組として、小地域福祉ブロック会議を課題解決のための会議としてだけでなく、地域活性化につながる活動の支援する会議となるよう、会議の開催までに市民の方から議題について検討する拡大事務局会議を新たに開催することとなり、20回開催し、161人の方が出席した。（12月末時点）（①～③） ・小地域福祉ブロック会議がきっかけとなった地域活動（社会資源マップの改定、福祉セミナー、福祉講演会）を4回行った。（①～③） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 地域の方の声が反映されるよう、企画の段階から参加していただいた。（①～③）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・より住民主体の会議となるよう工夫をする。 ・中学校区福祉ネットワーク会議及び地域ケアシステム検討委員会の機能を見直し、専門職の連携や課題解決の仕組みを強化する。</p>
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> ・会議に参加することで、地域の課題を共有している。（①） ・小地域福祉ブロック会議、中学校区福祉ネットワーク会議及び地域ケアシステム検討委員会に参画し、関係機関、団体等と交流した。（①、②） ・認知症のケアネットの周知活動を実施（①、②） ・地域ケア会議を実施（①、②） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 地域ケア会議を実施し、地域特有の課題を発見し、地域発信型ネットワークの活用を行うことで、解決に努めた。（①、②）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 多数の地域で地域ケア会議を実施し、地域課題を蓄積することで、より具体的な課題を発見できるように努める。</p>
子育て推進課	<p>子育て支援と多世代・公民の連携支援を深めるため、実行委員会形式により、乳幼児のための「こどもフェスティバル」を保健福祉センターで開催した。（②）</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 芦屋大学と国際高校から学生ボランティアに参加してもらい、多世代の交流を行うことができた。（②）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 実行委員会形式による「こどもフェスティバル」の内容をさらに検討し、多くの乳幼児と保護者に参加していただくため、PRの強化に努める。</p>
市民参画課	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会連合会の13ブロックでそれぞれ地域課題を話し合い、重要課題をまちづくり懇談会にとりあげ、市と解決に向けて話し合った。（②） ・あしや市民活動センターと協働で、地域課題解決の仕組みづくりにつなげていくため、市民活動団体の活動報告の提出を求め、活動内容を把握すると共に、課題となっていることについて相談、助言を行い、活動団体の育成を図った。（②） 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・従来の体制を少し変更し、質問項目を重点的なものに絞り全体的な問題について取り組んだ。（②） ・あしや市民活動登録団体の活動報告書の書き方と、登録申請の方法について説明会を行うと同時に、団体の紹介を兼ねた交流会を行った。（②）</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・市への要求事項が多く、何度も市と地域住民で協議し回答をしている事項についてまちづくり懇談会で再び取り上げているため、本来の目的に沿っていないものとなっている。 ・活動報告書、会計報告書の書き方に戸惑っている方が少なくないため、次年度は「1dayスタディ」セミナーを開催し、基本的な書き方を学ぶ場をつくる。その中で、あしや市民活動センターの職員が個人指導をすることで、団体の強み、弱みを再認識してもらい、より質の高い活動につなげるとともに、団体同士のネットワークの場とする。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
<p>青少年 愛護センター</p>	<p>・青少年育成愛護委員は小学校区ごとに班を構成している。その毎月の班集会に出席し、情報交換に務めた。 (①, ②) ・班集会で得られたパトロール報告を「班通信」としてまとめ、毎月発行し、育成愛護委員・行政の関係課に配っている。(①, ②)</p>	<p>B</p>	<p>【今年度工夫・努力したこと】 班集会で課題となった事項について必要に応じて行政内部や関係機関に働きかけて課題解決に努めた。(①, ②)</p> <hr/> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・左記の結果は必ず班や育成愛護委員全体にフィードバックしており、愛護委員のなかにまちづくりについての行政との一体感を醸成しているので継続する。 ・班通信については、地域の情報が即座に分かるので、行政内部で熱心に読まれている。継続して行う。</p>